「あまみエフエム　ディ！ウェイヴ」放送原稿〈１２月１３日（金）放送分〉

テーマ「奄美先人の知恵」

　あまみエフエム　ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今週は，毎月第２週に，奄美の文化・暮らしにおける先人の工夫などを紹介する「奄美先人の知恵」の９回目です。

　１２月２５日,「奄美群島日本復帰記念日」が近づいてきました。今年は「日本復帰」から６０年目の節目の年，６０周年を記念して，奄美大島はもちろん，全国でさまざまな催しが行われています。奄美図書館でも「奄美群島日本復帰６０周年記念シンポジウム」を開催する予定になっています。

　さて，６０年前の二十万人総がかりで行った日本復帰運動の指導者，泉芳朗（いずみほうろう）は，奄美大島日本復帰協議会の議長として，また，当時の名瀬市長として，奄美大島の日本復帰運動に生涯（しょうがい）をささげました。さらには，奄美の民衆詩人とも言われました。今日は，詩人としての「泉芳朗」について紹介しましょう。

　泉芳朗は，１９０５年，明治３８年，徳之島伊仙町面縄（いせんちょうおもなわ）に生まれました。鹿児島第二師範（しはん）学校を卒業して郷土に帰り，赤木名（あかきな）小学校，古仁屋（こにや）小学校，面縄（おもなわ）小学校の教師として教壇に立ちます。面縄小学校に勤務しているとき，両親の住む我が家から，泉の母校に通う子どもたちといっしょに歩く毎日の生活の中で，多くの作品を生み出しました。そして，それらの作品を一冊にまとめて，１９２７年，昭和２年に，最初の詩集「光は濡れてゐ（い）る」を出版，その翌年には教員生活に別れを告げ，東京に出て詩人として活躍し，「赫土（あかつち）にうたふ（う）」を出版しました。

　この「赫土にうたふ」の序文で，ロシア文学者の昇曙夢（のぼりしょむ）は，泉芳朗について，また，泉の詩について，次のように述べています。

「南國（なんごく）より詩人出（い）でよ―これは私の長い間の念願であった。この念願は不思議にも達しられなかった。本來（ほんらい）から言へ（え）ば我が奄美大島は，その環境から言っても住民の素質から言っても，疾（と）ふ（う）に幾多の詩人を，出してゐ（い）なければならない土地である。惠（めぐ）まれた南の島のほがらかな自然とお伽噺（とぎばなし）のや（よ）うな生活とは，それ自身既（すで）にさながら（ちゅうりゃく）の詩ではないか。（中　　略）
　最近明　　星（みょうじょう）の如（ごと）く詩壇の地平線上に輝き出した一人の若い南國詩人がある。それはこの詩集の泉芳朗君である。私の長い間の希望が，君の出現を待って始めて達しられたのは，獨（ひと）り私の喜びではあるまい。
　君こそは實（じつ）に期待された唯一の南國詩人である。南の島の豊かな自然と強烈な日光と色彩とが，君の筆を通して如何に歌ひ（い）出されてゐ（い）るか。長い間一孤島（いちことう）に秘められた，エキゾチックな匂ひ（い）の高い不可思議な物語が，君の藝術（げいじゅつ）によって如何（いか）に新しい生命に輝き抱（いだ）いたか。」
　昇曙夢が，奄美大島出身ならではの泉芳朗の詩を称（たた）え，泉に大きな期待をかけていることがよくわかります。

泉芳朗が深い郷土愛をこめてうたいあげた数々の詩の中に,「島」という詩があります。

島

私は　島を愛する
黒潮に洗い流された南太平洋のこの一点の島を
一点だから淋(さび)しい
淋しいけれど　消え込んではならない
それは創生(そうせい)の大昔そのままの根をかっちりと海底に張っている
しぶきをかけられても　北風にふきさらされても　雨あられに打たれても
春夏秋冬(しゅんかしゅうとう)一枚の緑衣(りょくい)をまとったまま
じっと荒海(あらうみ)のただ中に突(つ)っ立っている
ある夜は　かすかな燈台(とうだい)の波明(あか)りに沈(しず)み
ある日は　底知れぬ青空をその上に張りつめ
時に思い余ってまっかな花や実を野山にいろどる
そして人々は久しく愍(あわれ)みの歴史の頁(ページページ)々に
かなしく　美しい恋や苦悩(くのう)のうたを捧(ささげ)げて来た
わたしはこの島を愛する

南太平洋の一点　北半球の一点
ああ　そして世界史の　この一点
わたしはこの一点を愛する
毅然(きぜん)と　己(おのれ)の力一ぱいで黒潮に挑(いど)んでいる　この島を
それは二十万の私　私たちの島
わたしはここに生きつがなくてはならない　人間の燈台(とうだい)を探(たず)ねて

泉芳朗は１１年間東京で暮らし，３４歳の時に健康を害して，奄美大島に帰ってくることになります。そして，島の人々の中で，島の人々の心を歌い続けました。奄美大島の日本復帰運動も，詩によっておしすすめていきました。奄美大島を愛する泉芳朗を先頭にしたからこそ，二十万全員が気持ちを一つにして，日本復帰を成し遂げることができたのだと感じます。

１２月１３日まで，奄美市立奄美博物館において「奄美群島日本復帰６０周年記念復帰関係資料巡回展」を行っています。奄美群島における終戦から本土復帰までの年表や，鹿児島，宮崎，関西，関東における復帰運動，その他復帰後の１２市町村のあゆみなど，奄美図書館に所蔵されている貴重な資料等とあわせてのパネル展示です。入場は無料ですので，多くの方々にご覧いただけると幸いです。

以上，鹿児島県立奄美図書館でした。